

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立今泉小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	105人	国語B	105人
② 算数A	105人	算数B	105人
③ 理科	105人		

5 留意事項

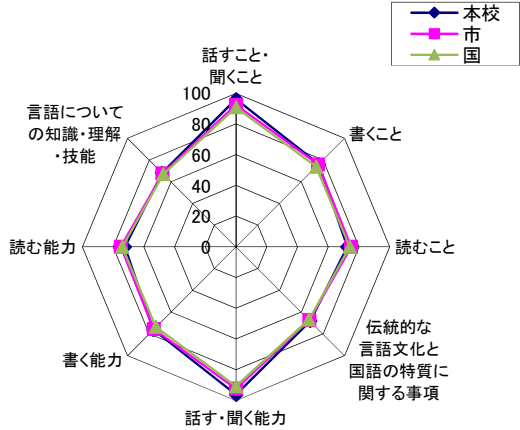
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立今泉小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

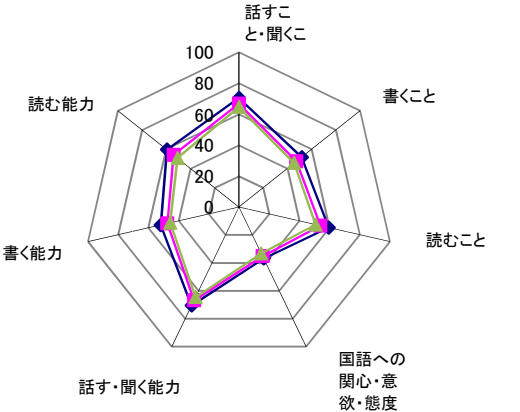
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	96.2	92.4	90.8
	書くこと	76.2	75.7	73.8
	読むこと	72.4	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.2	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	96.2	92.4	90.8
	書く能力	76.2	75.7	73.8
	読む能力	72.4	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	68.2	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	70.5	66.8	64.6
	書くこと	51.8	47.4	45.6
	読むこと	59.5	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	36.8	35.2	33.2
	話す・聞く能力	70.5	66.8	64.6
	書く能力	51.8	47.4	45.6
	読む能力	59.5	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

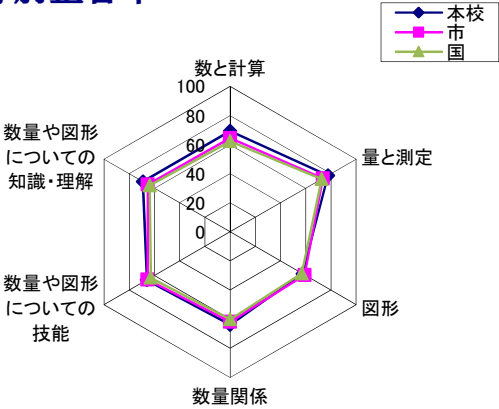
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○Aテスト[主として知識(以下省略)]の平均正答率は96.2%で、全国平均より5.4ポイント高い。また、Bテスト[主として活用(以下省略)]の平均正答率は70.5%で全国平均より5.9ポイント高い。 ○Bテストの、話し合いの様子の一部から、発言の意図を問う設問や司会者の役割を選択する設問では、それぞれ全国平均よりも6.1ポイント、6.3ポイント高い。	・自分の意見や考えを述べたり、集中して相手の話を聞いたりする様子が、国語の時間を中心に見られる。どの教科においても話す聞く習慣が身に付くよう、今後も継続して指導していく。
書くこと	○Aテストの平均正答率は76.2%で、全国平均より2.4ポイント高い。また、Bテストの平均正答率は51.8%と全国平均より6.2ポイント高い。 ●Bテストの目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く設問では、全国平均より1.1ポイント低い。	・テーマに沿って、文章から分かったことや疑問に思ったことをまとめて書く機会を多く設定するとともに、場に応じた適切な言葉を使って文章を書く力を高めさせる。 ・国語の時間に限らず、自主学習や日記等、日常的な場面でも自分の思いや考えを書く機会を設ける。
読むこと	●Aテストの平均正答率は、72.4%で、全国平均より1.6ポイント低い。 ○Bテストでは、51.8%と全国平均より6.2ポイント高い。 ●Aテストの登場人物の心情について、情景描写を基に捉える設問では、全国平均を5.4ポイント下回り、課題があると言える。	・授業で扱っている文章と同じ作者や同じテーマの作品を数多く紹介するなど、多くの作品に触れさせることで、登場人物の心情に沿って読み深められるようにする。 ・物語文では、登場人物に関する叙述を正確に捉えさせたり、関係性や心情、場面の変化を表す言葉に着目させたりすることで、主題を読み取れるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○Aテストの平均正答率は68.2%で、全国平均より1.2ポイント高い。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く設問5問中3問の平均正答率が、全国平均より低い。	・新出漢字を丁寧に指導するとともに、漢字ドリルを活用した繰り返し練習で定着を図る。 ・新出漢字だけでなく、既習漢字についても繰り返し練習させることで、定着を図る。

宇都宮市立今泉小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

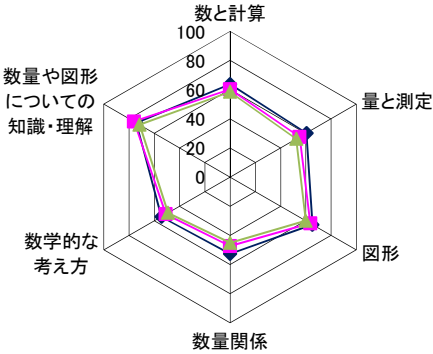
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	69.3	64.5	62.3
	量と測定	77.6	73.6	72.7
	図形	57.5	59.1	56.9
	数量関係	63.8	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	66.1	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	69.2	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	63.7	60.2	58.4
	量と測定	60.5	55.0	52.4
	図形	65.2	63.5	59.9
	数量関係	52.6	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	54.4	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	74.3	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

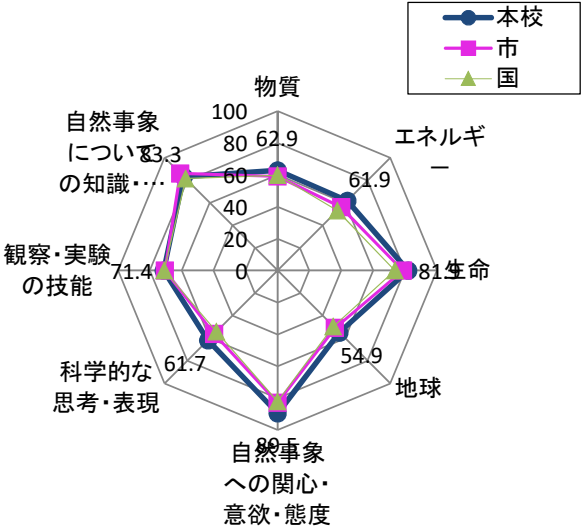
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○Aテスト[主として知識(以下省略)]の設問別平均正答率、Bテスト[主として活用(以下省略)]の設問別平均正答率共に全て全国平均を上回っている。 ●Bテストの、折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述する設問では、正答率が47.6%と課題がある。	・記述式の問題では、何が問われているのか、資料のどの部分に必要な情報があるのか意識させるようにする。 ・問題文から得られる情報を整理し、立式する考え方に慣れることができるよう、文章問題に取り組む際の意識付けを行う。
量と測定	○Aテストの設問別平均正答率、Bテストの設問別平均正答率共に全て全国平均を上回っている。 ●Bテストの、図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360度になっていることを記述する設問では、全国平均正答率を8ポイント上回っているものの、無回答率も19%と課題がある。	・図形の構成要素の定着を図る。また、文章題では文章中に与えられた数字が何を表しているのかを整理できるようにして、どのように活用して答えを導けるのか考えさせるようにする。
図形	○Aテストの設問別平均正答率、Bテストの設問別平均正答率共に全て全国平均を上回っている。 ●Aテストの、円周率の意味について理解しているか選択する設問では、正答率が49.5%と課題がある。	・日常生活の中で、算数が活用できるような場面を想起させたり、応用できそうなところを見つけ、身近なところでも算数の力が使えることを意識させていく。 ・考えを伝え合う場面を設定することで相手意識を高め、他者に説明する際に必要な要素を漏らさずに伝えることに慣れさせる。
数量関係	○Aテストの設問別平均正答率、Bテストの設問別平均正答率共に全て全国平均を上回っている。 ●Bテストの、メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する設問や、棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを適切に判断することができるかという設問では、正答率が20%台と課題がある。	・百分率や歩合といった割合の判別やその値の関係を確認し、割合を含んだ問題に取り組ませていきたい。 ・社会科や理科など、統計資料を扱う場面においてグラフの特性に目を向けさせ、グラフを活用する力を定着させたい。

宇都宮市立今泉小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	62.9	59.0	59.8
	エネルギー	61.9	56.4	53.1
	生命	81.9	78.6	73.6
	地球	54.9	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	89.5	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	61.7	56.1	54.1
	観察・実験の技能	71.4	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	83.3	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	○設問別平均正答率は、全て全国平均を上回っている。 ●食塩水を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ設問では、平均正答率が43.8%、食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導き出す結論を書く設問では、平均正答率が40%と課題がある。	・学習内容が定着していない部分に関して、今後、練習問題等を活用し内容の定着を図りたい。 ・学習活動において、実験や体験的な活動を増やすことで、予想する、結果をまとめる、考察するというサイクルを定着させ、更に学習内容への理解を深めさせたい。
エネルギー	○設問別平均正答率は、全て全国平均を上回っている。 ●太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ設問では、平均正答率が48.6%と課題がある。	・観測や測定で使用する用具の使い方については、丁寧に、継続的に指導し、誰もが実際にやってみる経験を通して、正しい知識を身に付けさせていきたい。
生命	○設問別平均正答率は、全て全国平均を上回っている。 ○動物や人への関心意欲が高い。	・今後も日常の自然現象を積極的に話題にしたり、植物や動物の飼育を推奨したりすることで、身の回りの自然に対する関心の高さを持続させていきたい。
地球	○地球領域の平均正答率は、全国平均を5.4ポイント上回っている。 ●流されてきた土や石を積もらせる水の働きを問う設問では、全国平均を4.6%下回っている。 ●大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び理由を書く設問では、平均正答率が26.7%と課題が残る。	・理科での追究の仕方を確認し、根拠に基づいた推測や理由を表現する力を育てるため、自分の言葉で書く時間を多く取り入れていきたい。

宇都宮市立今泉小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では、肯定的回答率が90.5%。また、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問では、肯定回答率が91.4%と全国の平均をそれぞれ6.5ポイント、6.1ポイント上回っている。児童は学校生活の中で、友達や教師とともに生活することの満足感が高いと思われる。これからも、児童の学校生活が充実し、仲間と共に成長することのできるような環境づくりに努めていきたい。

○「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の質問では、肯定的回答率が88.7%であった。また、「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」質問では、73.5%と全国の平均を12.5ポイント上回っている。授業において、目的意識を持って学習活動に参加しその結果を振り返り自らの成長につなげるという学習の流れの定着が見られる。今後も学習を通して児童が自らの変化（成長）を自覚し、自立して学習していくために必要な記録がとれるように指導していきたい。

○「学級の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問では、肯定的回答率が82.8%であった。友達の発言を最後まで聞き受け止めることで、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。互いに考えを共有することでそれぞれが自分の考えに自信を持ち、学習意欲が高まるというよい状況が生まれると思われる。今後も学び合う雰囲気大切に、自分の考えが持つことができる環境を育てていきたい。

○「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」の質問への肯定回答率が85.7%で全国の平均を23.2ポイント上回っている。さらに、学習の定着を図るために、自主学習を行う大切さを伝えらるとともに声掛けを行ってきたい。

●「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」の質問への肯定的回答率は、56.2%であり、全国平均を6.4ポイント下回っている。また「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」の質問への肯定的回答率は35.2%であり、全国平均を6.4ポイント下回っている。地域の行事を通して地域とのつながりが密になるよう地域の行事等の情報を各種便りを通じて提供していきたい。

宇都宮市立今泉小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の学習に継続性を生み出すことで学習内容の獲得、深化、統合を促し、確かな力を育む。	・授業における【目標（めあて・ねらい）】の提示と書く活動を伴う【振り返り】の実施。 ・主体的参加を促す授業デザインの工夫。 ・各自が設定した【目標（めあて・ねらい）】に従った自主学習への取り組みへの支援。	・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の肯定的回答率86.7%で、全国平均を10.8ポイント上回っている。 ・「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の肯定的回答率80%で、全国平均を12.4ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・算数の四則計算の習熟に個人差が見られた。 ・単位の量感や自然現象の実感を伴う体験的理解の更なる充実が課題である。	・学習活動と取り組み方の共通化と個別化を視点に、学業指導に取り組む。	・授業で扱うノートに「まとめ」や「振り返り」を記述することを意図的に行う。 ・テスト等を直して身に付ける学習やドリル学習を継続的に行うとともに、内容は児童により個別化できるようにする。 ・具体的な操作を伴う教材や器具等の活用について共通理解する。